

お知らせコーナー 千葉県防災危機管理部産業保安課 保安対策室



本県の液化石油ガス保安行政の推進につきましては、日頃から御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

1 2024年度LPガス消費者保安月間及び高圧ガス保安活動促進週間関連行事の実施結果について

県では、標記月間及び週間の関連行事として、10月23日に千葉県高圧ガス保安大会を実施し、優良事業者や優良従業員とともに、LPガスの事故防止に関するポスターコンクール入賞者に対する表彰を行いました。貴協会の皆様の多大なる御協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

2 LPガスの事故防止に関するポスターコンクールの結果について

県内の小学生及び中学生を対象に、LPガスの事故防止を目的とした消費者保安啓発用ポスターを募集し、多数の応募をいただきました。厳正な審査の結果、千葉県知事表彰及び公益社団法人千葉県LPガス協会会長表彰を決定しました。どの作品も、LPガスの事故防止を効果的に訴える力作ぞろいでした。

ここでは最優秀賞を受賞された作品について紹介します。

小学校高学年の部
八街市立八街東小学校 6年
星野 成那 さん

【講評】

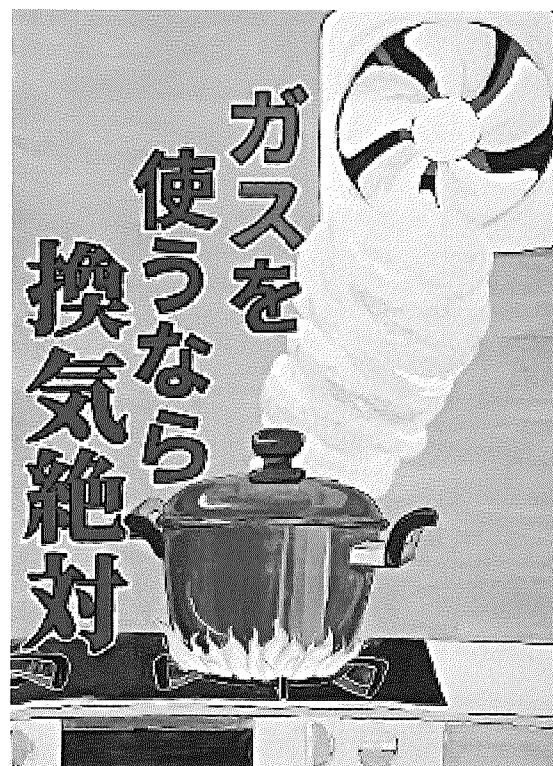
イヤホンを付けてスマホの画面に夢中になっている女性の脇で、大きな炎が上がっています。「事故は忘れた頃に起こる」。日常に潜む危険への注意喚起を、丁寧な描き方で表現しています。



中学校の部
松戸市立第一中学校 3年
稲葉 麻衣 さん

【講評】

動いていない換気扇をリアルに描き、日常的にやりがちな行動と、換気の方法を具体的に訴える構成です。金属光沢や炎などの質感をしっかりと描き分ける確かな描写力と、テーマを分かりやすく伝える構成力があります。



第46回 千葉県高圧ガス保安大会開催

【受賞者の皆様】

令和6年10月23日(水)オークラ千葉ホテルにおいて、千葉県と公益社団法人千葉県LPガス協会、一般社団法人千葉県高圧ガス保安協会、一般社団法人千葉県冷凍設備保安協会、千葉県高圧ガス流通保安協会、千葉県冷凍空調設備協会の関係5団体により千葉県高圧ガス保安大会が開催されました。

当協会からは、知事表彰の保安功労者として銚子支部株式会社飯田富蔵商店の飯田博之支部長と、千葉支部有限会社タケダ燃料の武田幸夫支部長が受賞されました。

また、当協会長表彰として、下表のとおり優良事業所5社、優良従業員5名の方々が受賞されました。

なお、小中学校の児童・生徒を対象としたポスターコンクールでは優秀な作品に対して千葉県知事の「最優秀賞」2名、「優秀賞」2名、千葉県LPガス協会長の「優良賞」4名が受賞され、表彰も併せて行われました。

閉会後の記念講演は、長崎文康氏(元中央労働委員会委員・元日本製鉄株式会社顧問)をお招きし『リスクマネジメントと私～入社50年を振り返って～』との演題で行われ、盛会裏に終了いたしました。



知事表彰			
株式会社飯田富蔵商店	飯田博之	有限会社タケダ燃料	武田幸夫
LPガス協会長表彰			
優良事業所		優良従業員	
有限会社富士プロパン商事	加藤浩	有限会社鮎川産業	鮎川勝昭
ミライフ株式会社千葉支店千葉店	山田泰大	有限会社岩澤燃料店	岩澤光洋
有限会社大東ガス	長尾昭	株式会社松伊燃料店	片岡大輔
小瀬澤商店	小瀬澤陽亨	丸高ライフエナジー株式会社	重田義算
木更津市農業協同組合 ガス供給センター	石渡肇	成田市農業協同組合 燃料事業所	土井義夫

令和6年度 LPガス消費者保安推進大会

LPガス安全委員会は、令和6年10月24日(木)に如水会館(東京都千代田区一ツ橋2-1-1)でLPガス消費者保安推進大会を開催しました。

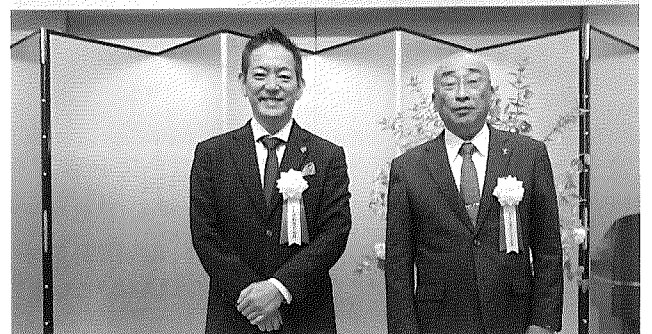
本大会は、自主保安活動を推進し顕著な功績を挙げたLPガス販売事業者等を表彰することにより、保安意識の高揚を図り、以てLPガスによる一般消費者等の事故を撲滅することを目的とするものです。

当協会からは保安優良LPガス販売事業所として、平山燃料株式会社(香取支部)がLPガス安全委員会会長表彰を受賞されました。

また、当協会は、自主保安活動チェックシートが100%提出されたことにより表彰されるLPガス安全委員会会長特別表彰と、ガス警報器工業会リメイク運動表彰の中の期限切れ一掃率部門を受賞しました。

受賞者の皆様誠におめでとうございます。

令和6年度 LPガス消費者保安推進大会



平山燃料株式会社 協会長
【平山聡 氏】 【小倉晴夫 氏】

第61回高圧ガス保安全国大会

令和6年10月25日(金)に第61回高圧ガス保安全国大会が、ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区赤坂1-12-33)で開催されました。

本大会にて行われた表彰の内、当協会からは、小沢正順氏(有限会社小沢商店:安房支部)が特別民間法人高圧ガス保安協会会長表彰の保安功労者として、受賞されました。

誠におめでとうございます。

「市川市市制施行90周年にあたり」

市川支部 秋元利文 支部長

去る11月3日に市川市は市制施行90周年、を迎えました。つきましては、市川市の歴史をご紹介します。

市川市は江戸川を渡ると、東京都江戸川区となり、通勤・通学の便の良さから東京のベッドタウンとして発展し、令和6年9月30日現在49万5千人ほどの人口を有し、千葉市、船橋市、松戸市に次ぐ千葉県第4位の都市となっております。

市川市の歴史を見ると、古くは、旧石器時代、縄文時代、そして弥生時代の貝塚他の遺跡が数多く残り（その数60カ所以上）、この地に人々が住み始めた事が分かります。

その後、律令制が来ると、千葉県北部と茨城県南西部を主たる地域とする「下総国（しもうさのくに）」となり、市川市国府台には国庁と国府が置かれ、下総国の中枢として栄えました。その後江戸時代になると、大部分が幕府領（天領）・旗本領とされ、特に徳川家康の意向により、江戸城における籠城を考え、塩の確保を目的とした、御手浜（大名が軍事用・民生用に管理・運営を行なった塩田）として行徳塩田は保護されました。この塩田は昭和初期まで続きました。



【市川市 市制施行90周年記念バッジ】

そして、昭和9年11月3日に東葛飾郡市川町、八幡町、中山町、国分村が合併し、「市川市」が誕生しました。次いで、昭和24年に大柏村、昭和30年に行徳村、昭和31年に南行徳町が編入され、現在の市川市となりました。昭和44年3月には、営団地下鉄（現、東京メトロ）東西線の東陽町－西船橋間が開業し、江戸川以南も発展しました。

江戸川を挟んで北側は、昔ながらの瀟洒な街並みが残り、中山法華経寺、葛飾八幡宮などの社寺も荘厳であり、特産物である梨を作る梨園も広がっております。それに対して、南側は東京湾に面しており、塩づくりは途絶えてしまいましたが、今でも海苔は少なくはなりませんが、作られております。行徳地区の東京湾埋立計画が中止され、塩浜地区が手付かずの状態となっていたが、護岸を整備し、市民が海に触れられるようにする計画が進行中で、これが完成すれば観光スポットとして、発展していくと思えます。

今後とも、市川市の更なる発展を願い、更に100周年と続いていくように、インフラの一翼を担う企業として市川支部も頑張っていきたいと思えます。



【江戸川のハゼ釣りの様子】

令和6年度大網白里市総合防災訓練に参加！

令和6年10月6日（日）大網白里市立増穂小学校にて大網白里市主催の「大網白里市総合防災訓練」が実施されました。

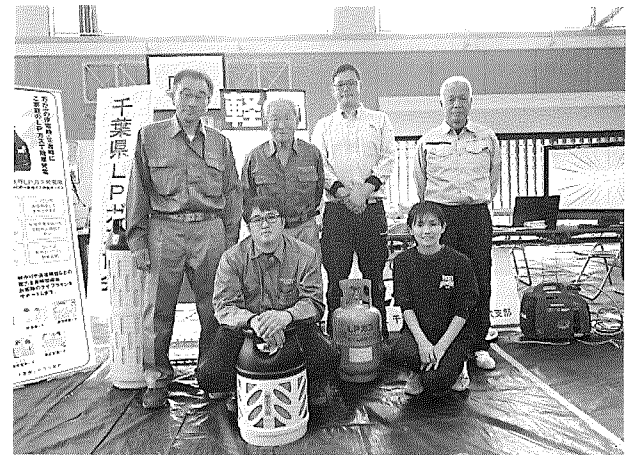
本訓練は、南海トラフ地震など大きな被害をもたらすことが懸念される地震への災害対応能力の向上を目的とし、全市民を対象に、住民の避難から避難所運営までの活動について、近隣住民と一体となった体験型訓練が行われました。

当協会は山武支部の南総住設株式会社様、株式会社うの丸住設様、角源マルキガス株式会社様、ミライフ株式会社千葉店様の皆様にご協力いただき、防災啓発に参加しました。

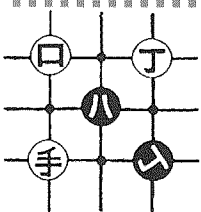
訓練は、市民の訓練参加のほか、増穂小学校の児童を対象に防災について学べるようワークショップ形式になっており、当協会は「災害時のガスの安全対策」をテーマに学んでいただきました。

ブースでは、LPガス放出防止器立体モデルの展示のほか、FRP容器と鋼製容器の持ち比べ体験や、LPガス発電機を使用した扇風機の稼働体験を行いました。持ち比べ体験では、FRP容器の軽さに驚く子が多く、一緒に展示していた身長と変わらない高さの20kgのFRP容器を持ち上げる姿も見られ、LPガスの安全性や利便性について楽しく学んでもらいました。

山武支部の皆様、ご協力いただき、誠にありがとうございました。



【山武支部、集合！！】



世界のエネルギーに関する様相が変化している。

自動車業界では日本勢が得意なガソリン車やハイブリッド車を封印し欧州車を優位に立たせるために推進してきた欧州のEV化が結果として中国勢の大躍進を招くことになった。

そもそも消費者のニーズ主導でのEV化ではなかったために売り上げが激減し

VWの国内EV工場の閉鎖やVOLVOでは2030年までにすべての車種をEV化する目標を撤回する羽目となった。思わぬ漁夫の利を得たのはEV化の立ち遅れた日本メーカーであることは言うまでもない。

同様なことが水素業界でも発生している。オーストラリアが国策で推進する水素事業の停滞だ。エネルギー大手では製造費が高く採算が見込めない水素プロジェクトからの撤退が相次ぐ。その原因は「水素市場の発展は想定よりも遅かった」である。

総じてカーボンニュートラルを推進する上で重要なのは消費者のニーズと採算性である。日本が進めている水素社会・メタネーション・グリーンLPGも同様に製造コストが高く今よりも価格が高くなることは明白である。果たして消費者に受け入れられるのだろうか。消費者の意識との乖離は致命傷となる。地球温暖化と脱炭素のせめぎあいはいはこれからが本番なのである。

中島元男 記

空家の充てん容器は必ず撤去しましょう！